

平成20年度 第2回松山地域協議会会議録（概要）

日 時 平成20年7月4日（金） 13：30～16：25

会 場 松山総合支所 講堂

◎出席者

1号委員 齋藤 勝 富樫 茂 阿部 茂 寒河江 久也 小田 和夫  
今田 充代 佐藤 ゆき子  
2号委員 山中 俊 土田 迪子 齊藤 薫  
3号委員 佐藤 洋子

松山総合支所 支所長 後藤 吉史 地域振興課長 須貝 彰  
市民福祉課長 大場 昭一 建設産業課長 川田 進  
教育振興室長 難波 富也  
地域振興課 課長補佐兼地域振興係長 阿部 みえ  
主任 佐藤 伸 主事 乙坂 哲也

◎欠席者

1号委員 須田 良 齋藤 尚  
3号委員 木村 美津枝 遠田 聡

◎傍聴人 2名

◎議事日程

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 会議録署名委員の選出
- 4 報告事項
  - (1) 委員提出の地域課題について
  - (2) 松山統合保育園整備事業に関する説明会質問等について
  - (3) 乳幼児健診について
  - (4) コミュニティ振興組織について
- 5 意見交換
  - (1) 眺海の森の管理について
  - (2) 3保育園統合後の跡地及び建物について
  - (3) 阿部記念館の今後について
  - (4) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

1 開会・・・進行を務める地域振興課長が開会する。

2 あいさつ

(会長)

4月に第1回地域協議会を開催し、早くも2ヶ月が経過した。第1回ではいろいろな課題について検討し実のある会議となった。まだ未定稿の部分があるわけなので更に中身に入った検討を行っていきたいと思う。

今日は新しい課題や進行中の事業について、この地域のためによりよいものになるよう委員の皆様からご意見をいただきたい。

この会では、事務局と委員の論争が中心であったが、地域の課題について、委員同士で話し合うことが本旨ではないかと感じている。本日は4名の委員が欠席しているが、忌憚のない意見をいただきたい。

(支所長)

7月1日に移動市役所が開催され、地域の皆様から参加していただいた。移動市役所の役割として、市長が市民の声を聞き間違いのない市政を行うことを目的として行われた。また、市民の方々から市役所をもっと身近なものに感じていただきたいという考えもあった。

今、各公民館単位でコミュニティについての話し合いが進められているが、行政では平成21年4月までに組織を立ち上げていただきたいと考えている。また、区長制についても、平成22年4月に自治会補助制にうまく移行できるようにしていきたいと考えている。地域経営のなかで市民と行政の協働という形がコミュニティ振興組織であり、その中で、区長制から自治会補助制へという流れについてもおのずと必要となってくるものだと考えている。

今回、意見交換していただく内容については、委員から提案された課題であるようなので、本来の地域協議会の目的ではないかと感じている。

3 議長及び議事録署名委員選出

○地域振興課長 会議録署名人の選出について協議会施行規則第5条により委員1名を選出する今回の会議録署名人を富樫茂委員にお願いしたい。

これより会議の議長を協議会設置条例第6条第2項により山中会長にお願いする。

4 報告事項・・・地域振興課長説明

5 意見交換

(1) 眺海の森の管理について・・・地域振興課長説明

○山中会長 林道関係の管理については、合併以前は林道の管理組合や受益者が町より補助金をいただき、自分たちで管理していた実態がある。市が管理している林道は茗ヶ山林道、早坂林道、東山林道で、内山林道については、山寺管理組合に委託して管理しているようだが、車が交差できないくらいに道路が荒廃している。管理の方策を考えていただいて意見をいただければありがたい。

- 建設産業課長 現在の林道の管理状況についてだが、東山線、茗ヶ山林道、早坂線の管理については6月に保全協会と管理委託契約をし、6月に道路の除草作業や側溝の泥あげ作業をしている。内山、中山、寺沢、白ヶ沢線等は管理組合に委託している。これも6月に道路の除草作業や側溝の泥あげ作業をしている。その後は気づいたときに現場を確認の上、対応するようにしている。
- 齋藤(勝)委員 白ヶ沢林道の管理組合では7月13日に側溝の泥あげのみならず、両側の樹木の取り払い作業も行う。契約の内容まで把握していないが、年3回程度は樹木の除去作業等を契約に入れるべきではないか。草刈作業は1回500円程度、秋の除草作業は慰労費程度で管理できると考えるので契約内容等をもう少し考えていただきたい。
- 山中会長 県行造林の管理は受益者の方々に公的に管理を委託しているという理解で良いのか。
- 今田委員 東山林道でアスファルトが欠けている部分が見受けられるがどこが管理しているのか。また、先日のような地震があった場合、土砂崩れが発生する危険性があるが、その場合は持ち主の責任になるのか。管理責任について伺いたい。
- 建設産業課長 民地の部分については基本的には持ち主が責任を取ることになる。道路敷地であれば、先ほど挙げた7路線は市の管理である。この前の地震のときも全て見回りをし、被害無しとの報告を受けている。
- 富樫委員 眺海の森の魅力が失われてきたように感じる。今後、眺海の森をどう管理し整備していくのか議論していかなければならない。地域として眺海の森をどう活用していくかを考えていくことが大切である。
- 山中会長 山小屋の管理をどうしていくか。野鳥観察小屋など眺海の森の活用方法について、利用者の利便を考えた上で、その手だてを考えていきたい。この地域は歴史公園を含め観光を中心に考えていかなければならない地域である。
- 午前中に担当にも話したが、眺海の森にある吊り橋について、橋の板が乾燥して隙間が広がり怖くて下を見て渡ることができないといった観光客の声を聞いた。担当はその都度、補修をしていてロープ等も定期的に点検しているということで安全面については問題ないと話しているが、利用者から見るととても危険に感じるのではないか。また、東山林道のパラグライダーの発進地はもう完全に使えないのか。航空路と重なるため使用できなくなったと聞いたことがあるが、本当なのか。
- 富樫委員 眺海の森全体をどう利活用していくのか担当する部署がない。だから施設が眠ってしまうことになる。運用の仕方が下手である。また、眺海の森の道路が狭いため大型車が入れないと聞いたこともある。アクセス面でも配慮して行かないと客足に影響がでてくる。眺海の森には目玉になるものがないことが弱い。例えば、眺海の森全体に町の花だったつつじを植え、つつじ園にすれば、一定の時期ではあるが観光客を呼べるのではないか。ただの自然では人はこない。眺海の森をつくったときのコンセプト(概念)がなかったのではないか。
- 山中会長 コスモスを植えたときには、大変好評で多くのカメラマンや観光客が松山にきた。今、富樫委員が言ったようなことを専門家などを交えて議論していけばいいのではないか。
- 阿部委員 眺海の森構想を打ち上げる際に私は松山中学校にいた。その時は、遊歩道に一本6千円の苗木を植樹したが、今現在は跡形も無いようである。管理の仕方が悪かったのか。キャン

ブ場も当時整備したが、現在は使用されていないようである。整備自体が単発的で、中途半端である。維持管理についても同じである。眺海の森自体が老朽化している感じがする。これまでの施設を再整備した上で、総合的に進めていったらどうなのか。

○山中会長 甚兵衛小屋付近はキャンプ場として利用していた時代は非常に良かったが、熊騒動によって利用者が激減した。アスレチック関係については、保存管理の問題で修繕が追いつかなかったと聞いている。キャンプ場として水道、釜場、トイレ、避難場所など満点に近い状態に整備したが再生は行えないものか。

○佐藤（洋）委員 眺海の森の整備について、本所・支所ではどう考えているか伺いたい。

○地域振興課長 眺海の森の整備については、この地域の大きな課題であると捉えている。眺海の森再整備構想ということで、松山地域としてどういう方向に進めばいいのか検討している段階である。眺海の森に多くの人から足を運んでいただくにはどうしたらよいか、また、既存の施設の利活用方法なども含め支所の中でもワーキンググループを作り議論しているところである。構想を実現させるためにも皆さんからご意見をいただきたい。

○阿部委員 お年寄りを呼ぶには美味しいものを食べさせる施設が必要である。また、散歩ができる施設も必要である。

○佐藤（洋）委員 今ある山小屋についてオーナーと契約をし、例えば、春にはオープンガーデンなどを開いたりして蔵王にあるペンション村のようにできないかと思う。

○富樫委員 今ある施設をどう使うのかを考えると、どうしても閉鎖的になるような気がする。今ある施設は一定の役割を終えたと考え、新しいモノを作るという発想の方が良いと思う。今、健康のために歩くことが流行なので遊歩道の整備をしたらどうか。問題はアクセス面であるが、「アイアイ」に行くような定期便のバスを運行させ、眺海の森の上まで行くことができるようにすることはできないのか。

佐藤委員が話したペンション構想については前にも話したが、本当に良い考えだと思う。環境や衛生面などに配慮しながら進めていただきたい。

「さんさん」について、八幡観光に経営者が変わってからサービスが悪くなったように感じる。宴会時の対応も悪い。これも眺海の森への客足を遠くしている原因のひとつだと感じる。行政からのアドバイスが必要なのではないか。

○小田委員 眺海の森の再開発については、合併前からの引き継ぎ事項である。例えばペンションにしても、利益が望めなければ民間の人では話にのれない。県民の森という位置づけであれば、施設を一元化して管理するように考えていかなければならないのではないかと。「さんさん」で一括して管理できないものか。

15:03 休憩

15:13 再開

(2) 3 保育園統合後の跡地及び建物について → 市民福祉課長説明

○小田委員 朝日園を除いた保育園は、学校、公民館と隣接しているので、跡地利用としては、コミュニティ設立と同時に防災センター的なものにしたらどうかと思う。

○佐藤（ゆ）委員 内郷と南部では3園統合後に賑わいがなくなる不安もある。また、統合後に保育園の施設を地域に渡されたとしても、修繕などの経費面で地域の負担が伴うのであれば任されても困る。

防災センターのようなものを作っていただきたい。また、南部では公民館と保育園併用の駐車場のため大変狭いので、その問題も考えていかなければならない。

○寒河江委員 内郷公民館もかなり老朽化しており、さまざまな問題がある。コミュニティを組織化したら新しい施設を建てていただきたいという話も内郷地区ではでている。

○富樫委員 これからは市民の安全確保という立場で利用しようという考え方が良いのではないかと。仮に災害が起きた場合には、今の山寺公民館では受け入れきれないと思う。本来、コミュニティを考えた場合、防災センターなど緊急的な部分もあるので、新しい施設を建てることも検討していただきたい。22年からすぐに使える方法は無いかと言っていたが、そんなに急ぐことは無いのではないかと。住民に対しては、緊急避難的に使えるものということで提案した方が具体的な考えが出てくるのではないかと。

○小田委員 先月に完成した若浜学区の防災センターなどを大いに参考にして、そういった設備を考えていくべきでないかなと思う。

○富樫委員 市街地と違い、この地区では公共的な建物が少ないので、ぜひ、そういう整備計画を市の基本計画に組み入れる形で進めていただきたいと思う。

○齋藤（勝）委員 3園統合後の跡地及び建物についての市としての計画を提示していただいて検討させていただきたい。

○支所長 市が何をしてくれるのかということでは無く、地域としてこのように活用したいという意見を聞きたい。

○齋藤（勝）委員 地域の住民は色々と考えているが、施設の維持管理について地元の負担が絡むのであれば、解体した方が良いとなるだろう。防災計画を考えた上での施設利用ということであれば、心棒がしっかりしてくるのではないかと思う。そういう提案を是非してほしい。

○支所長 防災面は非常に大事なところである。

必ずそうなるということではないが、酒田市教育委員会では複式学級は作らないというスタンスである。地見興屋小学校では複式学級の学年もある。内郷小学校でも生徒数を考えると複式学級が予想される。近々、松山小学校の建替えについても問題になってくると考えている。そうなる場所をどこにするかなど問題はありますが、当然、統合が話題になることを、頭に入れておいていただきたい。国もそうだが、地方財政は非常に厳しい状況にある。酒田市にも合併15年の特例期間における自治体経営、財政ビジョンはある。ひばり園、みどり園をどうするかも大切だが、コミュニティを進める上でそういったことも考えていただきたい。

○小田委員 壊して新しいモノを作るという発想もあるが、学校にそういう防災機能を持たせる発想も非常に大事だと思う。

○山中会長 建物を一体的に考えてコミュニティプラス防災センターというように考えていくのか、今後また議論していきたい。

(3) 阿部記念館の今後について → 地域振興課長説明、教育振興室長説明

- 土田副会長 阿部記念館には阿部次郎先生と阿部襄先生の資料がある。阿部記念館の管理体制が変わり、阿部先生を慕ってくるお客様に対して十分な説明ができなくなっているのではないかという懸念がある。阿部次郎を偲ぶ会があるが、そういった人々の意見を聞きながら進めていかなければならないと思い今回提案した。
- 富樫委員 市は費用対効果を考え、阿部記念館の管理体制を変更したのだと思っている。松山地域の偉人のことを伝えていくのは地域に残る我々の仕事だと思う。前館長には、紙芝居を作成し阿部次郎先生を伝えていくという構想があった。紙芝居の下地はできているが、予算が無いため進まないでいる。費用対効果は大変重要なことであるが、こんな管理体制では価値が落ちる一方だと思う。説明する機械でも置けば良いのと思うが実現しない。そういうことも踏まえ、文化伝承館に移築できれば良いと考える。生家としては残るわけなので、資料等を山寺に置かなければならないということはない。
- 阿部委員 年間の来館者数が300人という数にも関係があると思うが、生家がある松山では消えそうなのに仙台では阿部次郎先生の研究が進んでいるという皮肉な一面もある。阿部先生を伝えて行くために樋渡先生は10年間も犠牲を払って記念館を維持してきた。館長が兼任になって同じことができるわけがない。また、生家を残したとしても維持管理が心配である。
- 山中会長 歴史公園整備委員会の意見を聞きながら考えていった方がいいのか。
- 支所長 阿部記念館と歴史公園の再整備の問題は分けて考えていく必要があるのではないかとと思う。地域の人々の声を聞いて進めていくべきだと考える。
- 今田委員 阿部先生を偲ぶ会の会員は松山の人だけではないようだ。阿部先生は哲学だけではなく、文学の人たちとの交流もある。膨大な蔵書もあるので時間があれば見に行っていたきたい。偲ぶ会では会員を増やす宣伝をもっと上手くやっていたら良いと思う。襄先生はユニセフなどの関係でも活躍した人物と聞いている。偉大さを伝えるには、阿部記念館しかないと思う。偲ぶ会の意見も重要だが、まず記念館を見に行ってから議論をした方が良いのではないかと。
- 小田委員 記念館の全体的な位置付けの中に生家があるということを認識しなければならない。生家として残すのであれば昔のままの姿で復元していかないと価値が無いと思う。阿部先生の研究の成果を出せば若い人たちも寄ってくると思う。阿部先生の偉大さを伝えていくにはあそこの場所しかないと思う。
- 阿部委員 松山小学校の3、4年生は1学期に勉強に行っている。
- 山中会長 当局から考え方を検討していただくということで良いか。中学校と松山小学校、地見興屋小学校の校歌は阿部襄先生が作詞したものである。阿部記念館をどうするかについては、偲ぶ会の人たちもメンバーに入れた検討会のようなものを作って考えていくことにしたい。
- 支所長 検討の場も含めて、様々な方々の意見を聞きながら検討していきたい。

#### (4) その他

- 小田委員 学童保育の件について、調査等必要かもしれないが、酒田市内では10数箇所が酒田市指定の学童保育所になっているようである。郡部では酒田市指定以外の学童保育はいくらかあるのか。状況のわかる資料をいただきたい。また、日本海病院と市立病院の統合により、利用しづらいとの声がある。システムが変更されたことについて、特に高齢者に対して、例えば老

人クラブの集会などを利用し周知徹底を図っていただきたい。

○支所長 学童保育については、後で資料を提示する。

病院については、止むを得ない部分もあるが、評判が悪いのは事実である。その問題については酒田市としても真摯に受け止めている。

○山中会長 松山診療所にいる医師についてだが、今年1年限りの契約と聞いている。医師住宅も取り壊されているようだが、来年には無医地区になるのか非常に心配である。

○市民福祉課長 医師の契約は全て1年契約となっている。今の医師が変わる可能性はあるがなくなるということではない。地区に対して医師がいなくなるという説明をしたことも無いし、医師住宅の解体と診療所の医師がいなくなるということは関係の無いことである。

○支所長 診療所を無くする話は全くでていない。

○山中会長 移動市役所の際に、片町の火災の話がでていた。消防の到着が遅れたのは片町の名称が旧市と重複しているためだという声もある。住所をかえられるのであれば、字松嶺と変更したらどうなのか。

○支所長 火災の際には非常にご迷惑をお掛けした。処分もあったと聞いているが、松山分署は到着が一番早かったはずである。

○地域振興課長 現在は、住所地に重複はない。火災の防災無線も松山地域に流れたので、消防本部でも松山地域と認識していたはずである。

## 6 その他

○地域振興課長 次回の会議を9月定例会終了後としたいので、9月下旬頃か10月上旬に予定したい。委員の方々から検討課題をいただき、早急に取り組まなければならない課題について会長と副会長と協議して次回会議で話し合う課題を決定していきたい。

7 閉会・・・進行の地域振興課長が閉会する。